

＼あの一般質問どうなった？／

このコーナーは過去に各議員が一般質問を行った事案で、その後その質問が多久市政にどのように反映されているのか、また今後どのように反映されるのかをお伝えします。



市側の対応…多久市では、マイナンバーカードによるコンビニでの住民票の写し、住民票記載事項証明書、印鑑登録証明書、所得・課税証明書の発行を令和7年2月開始を目標に準備が進められています。コンビニでの発行時間は6時30分から23時までです。12月29日から1月3日までを除き土曜日、日曜日、祝日関係なく日本全国どこでも取得可能です。

当時の答弁…多久市においては、1件当たりの発行コストが非常に割高になるため、現状では導入を見送っていますが、オンライン申請などで対応しています。しかし、検討する方向で考えています。

「マイナンバーカードによるコンビニでの住民票などの各種証明書の取得について」

令和5年6月定例議会



市側の対応…DX推進の観点からも、多久市ではマイナンバーカードや運転免許証などを活用した「書かない窓口」を実施するため準備が進められています。来庁者は市役所の窓口で申請書に記入せずに、各種証明書の発行や住民異動届など住民異動に係る諸手続きが可能になります。各種証明書の発行は令和6年10月から、住民異動届などの諸手続きは令和7年2月からのサービス開始を目標に準備が進められています。

当時の答弁…来年度の実施に向けて準備を進め実現したい。

「書かない窓口を実施される自治体が増える中、多久市としての方向性は」

令和5年12月定例議会

「多久市過疎地域持続的発展計画」における取組と進捗状況について

学校教育の充実について

彌富 市内義務教育学校の1校への集約とその時期は。

答弁 平成20年8月11日の最終答申を受けて、現行の3校体制は維持します。

彌富 学校のプール授業を、民間施設など利用の検討は。

答弁 学校とも協議しながら検討をしていきたいと考えています。

「子育て・若者世帯」

彌富 定住奨励金の実績は。

答弁 令和3年32件・4年35件・5年34件です。「本年度移住定住者向けポータルサイト」を作成しています。

少子化対策について

彌富 出生率向上策として、切れ目のない一時金支援を、多久市ふるさと納税基金を活用し、10年間・15年間で期間を設けて、多久の将来に禍根を残さないためにも即、実施する



彌富博幸 議員

べきでは。市長決断の時期ではないでしょうか。

答弁 少子化対策は、全国的な課題で国・県と連携し取り組みます。提案されているふるさと納税の活用については、関係機関・市役所内で検討をしっかりとやっていきます。

観光の振興について

彌富 市内各町一つの神社を、市の文化財指定にする考えは。

答弁 重要文化財登録は指定基準を満たす必要があり、考えていません。

彌富 今後も、市の文化財指定への取り組みは、引き続き工夫検討を重ねてほしい。



論語大学⑤

「子、怪力乱神を語らず」

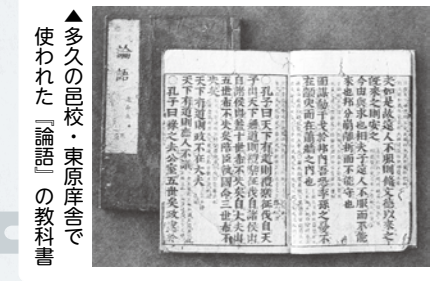
孔子は妖怪の力や神の祟りについて、一切口にされなかったことはなかった。(述而篇)

宗教を語ることはなかなか難しいが、心配事や不幸事、また自分の思い通りにならないことが続いたりすると、キツネや先祖の霊や神仏の祟りがあるからではないかという不安や恐れ、おののきながら、その解決を神や仏に祈る。そんな宗教は今も昔も変わらず、人の心を支配する。いや、祟りの思想や迷信は科学、医学が発達した現代の方が孔子の時代よりもっとひどくはびこってはいないだろうか？

生まれ難き人間に生まれ、せっかく頂いた自分の唯今のいのちをどう生かすか、何を土台として生きるかが大問題であって、それを自らに問うのが宗教の持つ本来の意義であろう。

しかし、幸福になるか、不幸になるかの自分の運命を左右し支配する怪力乱神のあること、人の不幸や苦悩に付け込んで巧みに信じ

込ませ、気やすめの恐怖心からの解放を利用した靈感商法、あるいはこれに類した宗教の何と多いことか。こうしたものを信じ、自分の都合のいいように進めば感謝し、喜び、有頂天になり、都合が悪くなれば、騙されたという、恨み悲しみ、それは信心が足りないからだと言われれば、抜けない狂信の世界にのめりこむか、もしくは余りにも安易に新しい効き目のある神、仏を求めてさまよい歩く。こうした、狂信し軽信を土台とした人生では腰のすわった力強い人生とは言えない。



▲多久の邑校・東原彦舎で使われた「論語」の教科書

論語大学について

かつて、私たちの郷土・多久は先人たちの努力により佐賀藩内はもちろん諸藩に先駆けて邑校・東原彦舎、そして聖廟を建立。この地に「文教の里」を作り上げた。今一度、私たちは先人たちの血のにじむような努力を思い起こし、その実行に努めるべきではないでしょうか。その願いを込め、元学校長 故・不二見達朗氏が30数年前に多久市報に連載寄稿した論語解説を復刻するものです。